

## 川崎プラスチックケミカルリサイクル事業（KPR）設立 20 周年式典を開催

～川崎から世界へ、次の共創に向けた活動を表明～

株式会社レゾナック（社長：高橋秀仁、以下、当社）は、3月13日、当社川崎事業所のプラスチックケミカルリサイクル事業（以下、「KPR」）\*1が稼働開始から20周年を迎えたことを記念し、川崎日航ホテルにて記念式典を開催しました。式典には、地元・川崎市の福田紀彦市長をはじめ、日頃プラント運営に携わっていただいている企業の皆さま、KPRで使用済みプラスチックをリサイクルして生み出されたアンモニア・水素のお取引先、今後の共創パートナー企業など、事業を共に支えていただいたステークホルダーの皆さまと当社関係者約120名が出席し、当社からの感謝をお伝えするとともに今後の発展を祈念しました。



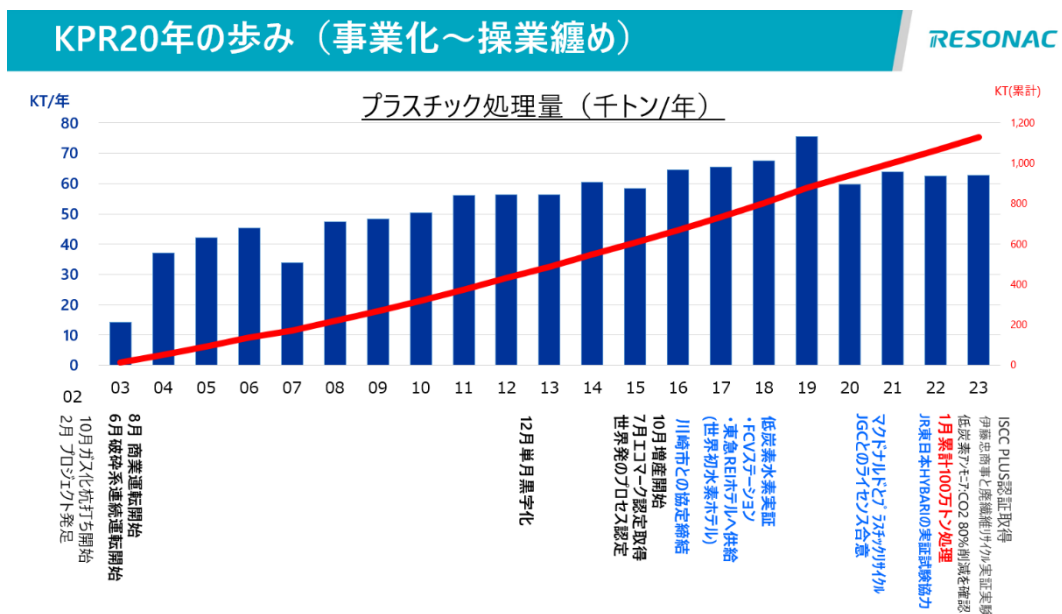
式典では社長の高橋より、川崎市をはじめとするステークホルダーの皆さまに対して「当社の目指すべき姿は『共創型の化学会社』です。KPR はさまざまなパートナーの皆さまのご支援により、稼働開始から20年を迎えることが出来ました。改めて感謝申し上げます。当社は、サステナビリティを経営の根幹に据えております。その中、今時代が求めているカーボンニュートラルの取り組み、循環型社会を支える仕組みとして、KPR は世界に誇るべき技術だと考えております。20年の苦勞を共にした皆さまとともに、KPR の技術をここ川崎から世界に展開し、新たな共創の輪を構築してまいります」と感謝の気持ちを伝えました。

続いて KPR を管轄する基礎化学品事業部より、KPR の 20 年間の歩みをご紹介します。また、将来に向けた取り組みとして、川崎市が推進する「川崎カーボンニュートラルコンビナート構想」「川崎臨海部ビジョン」実現に向けた川崎市の臨海コンビナート各社様との連携、日揮ホールディングスを通じたプラスチックガス化モデルの国内外へのライセンス展開や、伊藤忠商事との「ARChemia (アルケミア)プロジェクト」による繊維原料への資源循環の実証実験など、脱炭素社会、循環型社会の実現に向けた共創パートナーの皆さまとの活動をご紹介します。

当社は 2003 年より、使用済みプラスチックをアンモニアなどの化学品原料にリサイクルするプラスチックケミカルリサイクル事業に取り組んできました。KPR はガス化ケミカルリサイクルを 20 年の長期にわたって安定運転している世界で唯一のプラントであり、2022 年 1 月には、使用済みプラスチックのリサイクル量が累計 100 万トンを達成しています。今後も当社は、KPR を当社のサステナビリティ戦略を代表する事業のひとつとして位置付け、脱炭素社会・資源循環型社会の構築に貢献してまいります。

### \* 1. プラスチックケミカルリサイクル事業 (KPR)

KPR では使用済みプラスチックを原料に、高温でガス化し分子レベルまで分解して水素と CO<sub>2</sub> を取り出しています (ガス化ケミカルリサイクル)。定常運転中に化石燃料をまったく使いません。ここで取り出された水素の一部は近隣プラントにて化学原料向けや水素ステーションにて燃料自動車向けに活用され、そのほかは主にアンモニアの原料になり合成繊維、合成樹脂、化学肥料、薬品などに使われます。一方の CO<sub>2</sub> は大気中に放出することなくグループ会社でドライアイスや炭酸飲料、医療用炭酸ガス向けの原料に使用されるなど、資源循環を実現し持続可能な豊かな社会実現に向け活躍しています。KPR は 2015 年より環境省の「地域循環型水素地産地消モデル実証事業」に採択されているほか、2016 年の「エコマークアワード銀賞」受賞、2020 年の「グリーン購入ネットワーク経済大臣賞」受賞など、その取り組みが高く評価、期待されています。



#### ■過去の KPR 関連ニュースリリース

- [製造プロセスで世界初！ 昭和電工のアンモニア製造プロセスがエコマーク認定を取得](#)
- [水素エネルギーで世界が注目、レゾナックのケミカルリサイクル施設を IPEF が視察](#)
- [プラスチックケミカルリサイクル事業において使用済みプラスチックのリサイクル量 累計 100 万トン達成](#)
- [CO2 排出量 80% 強削減を確認、使用済みプラスチックから生まれた低炭素アンモニア](#)
- [使用済みプラスチックを原料としたサプライチェーンで国内初の国際認証取得](#)
- [ホテルの燃料電池向けに低炭素水素の正式供給を開始](#)
- [船舶へのアンモニア燃料供給の実現に向けて、日本郵船・JERA と協同契約](#)

以上

#### 【Resonac（レゾナック）グループについて】

レゾナックグループは、半導体・電子材料、モビリティ、イノベーション材料、ケミカル等を展開し、川中から川下まで幅広い素材・先端材料テクノロジーを持つ化学会社です。2023 年 1 月に昭和電工グループと昭和電工マテリアルズグループ（旧日立化成グループ）が統合し、新たなスタートを切りました。新社名の「Resonac」は、英語の「RESONATE：共鳴する・響き渡る」と、Chemistry の「C」を組み合わせで生まれました。レゾナックは「共創型化学会社」として、共創を通じて持続的な成長と企業価値の向上を目指しています。2023 年度の売上高は約 1 兆 3 千億円、うち海外売上高が 53% を占め、世界 22 の国や地域にある製造・販売拠点でグローバルに事業を展開しています(2024 年 1 月時点)。詳しくはウェブサイトをご覧ください。

株式会社レゾナック・ホールディングス <https://www.resonac.com/jp/>

#### ◆ 本件に関するお問い合わせ先

株式会社レゾナック・ホールディングス  
ブランド・コミュニケーション部 広報グループ  
TEL 03-6263-8002